

報告文献別一覽表

報告文献別一覧表(医療機器) (平成19年10月1日～平成20年3月31日)

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	C型肝炎	Eur J Gastroenterol Hepatol 2008; 20: 73-78.	2つの異なるセンターで消化管内視鏡検査と造影増強型CTを受けた患者に発生した急性C型肝炎の2症例を調査した。感染源を同定するために、診断手順の実地調査、医療関係者のインタビュー、前後に検査を受けた患者の血清学的検査ならびに患者及び潜在的なウイルス血源からのウイルス分離株の分子分析を行った。疫学的調査の結果、当該症例の直前にCTスキャンを受けたHCVキャリアが同定された。HCV配列の分子系統遺伝学的分析の結果、キャリア由来の分離株と当該症例由来の分離株とは近縁であることが示された。造影増強型CTスキャン中にHCVの院内患者間感染が起きたことを明らかにした初めての報告である。
2	C型肝炎	Infect Control Hosp Epidemiol 2008; 29: 83-85.	スウェーデンの大学病院の胃腸病科の患者515名を対象にC型肝炎の院内感染発生に関する前向き研究を行った。入院時および入院後3-6ヶ月目に採血し、血漿中のHCV抗体およびHCV RNA検査を行った。一般的な予防措置は実施されており、頻回使用バイアルは禁止されていた。HCVの院内感染と関連するいくつかの危険因子に対する5,964の暴露日にもかかわらず、C型肝炎症例は発生しなかった。
3	E型肝炎	Am J Trop Med Hyg 2007; 77: 893-896	と畜場の作業員において検出されたE型肝炎感染の初症例を報告する。同定されたウイルスはジェノタイプ3、サブタイプ3#に属していた。患者の血清から分離されたウイルスの部分的配列解析によって、ヨーロッパのヒト株およびブタ株とのヌクレオチド相溶性がそれぞれ83.4%-97.3%の範囲であることが明らかとなった。これらの所見は、ブタの感染器官の取り扱いを介して職業病としてE型肝炎ウイルスに感染したことを強く示唆する。
4	E型肝炎	BMC Vet Res 2007; 3: 9	ブタHEVの感染力を見積もるために日本の養豚場の大規模血清有病率調査データを再分析した。ブタHEVの感染力は北海道3.17、本州2.68および九州3.11であった。モデル概算では感染時の平均年齢は59.0-67.3日齢で、95%以上のブタが150日齢前に感染した。異なった感染力での年齢特異的発生率の感度分析の結果、感染力の減少は感染時年齢を上昇させ、180日齢時のウイルス排泄ブタの数を増加させることが示された。感染力の低下が始まったら、仕上げ時のウイルス陽性ブタを最小にするために徹底的な対策をとる必要があるかもしれない。
5	E型肝炎	J Gen Virol 2007; 88: 912-917	米国の地方の食料品店で売られている市販のブタレバー中にHEVが存在するかを調べるため、ブタレバー127パックを購入し、4つのHEVジェノタイプ全てを検出できるRT-PCRアッセイによって調べた。127検体中14例がHEV RNA陽性で、全てジェノタイプ3であった。PCR陽性のブタレバーホモジネート3例をブタに接種したところ、3例中2例が感染した。市販のブタレバーには感染性のあるHEVウイルスを含有しているものがあることが明らかとなった。
6	E型肝炎	J Viral Hepat 2007; 14: 304-309	イングランド南西部における土着のE型肝炎について調査を行った。原因不明の肝炎患者333名においてHEV感染を調べたところ、21名が土着のE型肝炎であった。患者は中年または老人で男性の方が多かった。臨床症状は無症状から重篤な肝炎まで、多岐に渡っていた。HEV流行地域への旅行者やベジタリアンは一人もいなかったが、全員がブタを食べた経験があった。PCRの結果、全てがHEV ジェノタイプ3で、英国のブタで蔓延しているHEVと近い相溶性があった。E型肝炎はブタを宿主とする人畜共通感染症と考えられ、公衆衛生上の重要事項とみなすべきである。
7	E型肝炎	J Virol Methods 2007; 143: 112-116	オランダのブタにおけるHEV感染率を調べるため、97の養豚場で糞中のHEVの存在を検査した。HEV感染率は2005年では55%(53/97)で、1999年の22%(25/115)に比べ有意に増加した。適切な内部コントロールを用い測定すると、糞中にはRNA PCR阻害物質が含まれるため、未希釈の検体では検出率が33%であったのに対し、10倍希釈した検体では55%であった。また検出されたHEV株の1つはオランダでは今まで検出されたことのないヨーロッパクラスターに属していた。
8	E型肝炎	ProMED-mail 2007年9月3日	E型肝炎ウイルス感染は妊婦に致命的となるおそれがあるが、最近までは中国、インド、ならびに発展途上国に限定されると考えられていた。今ではヨーロッパ人もHEVに感染していると2007年9月3日に第161回 General Microbiology学会で報告された。HEV由来の遺伝物質は日本、米国およびオランダで販売されているブタの肝臓で検出されている。野生のイノシシ製品も同様の危険性を持っている。現在の診断の割合は欧州諸国における急性ウイルス性肝炎患者の13%に達するが、実際にはより高いと思われる。
9	E型肝炎	Scand J Infect Dis 2007; 39: 454-456	渡航経験もなく、渡航経験のある者との接触もなく、E型肝炎を発症し、オランダ国内における感染が示唆される患者2例について報告した。オランダの田舎では生の豚肉を食べることを好むことから、生の豚肉の摂取がHEVによる肝炎と関連している可能性があることが示唆された。
10	E型肝炎	獣医畜産新報 2007; 1033: 658-663	佐賀県内の母豚、肥育牛、子牛、野生イノシシのE型肝炎ウイルスの感染状況を調査した結果、母豚22頭のうち1頭の大腸内容物および野生イノシシ59頭のうち1頭の血清からE型肝炎ウイルスが検出された。遺伝子解析の結果、母豚由来のウイルスは遺伝子型IIIに分類され、仙台および米国のE型肝炎患者由来のウイルスに最も類似していた。国内で発生したヒトのE型肝炎は人畜共通感染症である可能性が示唆された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
11	E型肝炎	日本臨床 2007; 65(増刊号3): 135-138	E型肝炎は、E型肝炎ウイルス(HEV)感染により発症する急性肝炎で、主に経口感染し慢性化することはない。ウイルスは便中に排泄される。ヒトからヒトへの感染はまれで、感染にはブタなどの動物が大きく関わっている。途上国では急性肝炎の約半数がE型肝炎とされているが、先進国では散発例がほとんどである。日本では北海道が高浸淫地域である。HEV感染は不顕性で終わることが多く、日本では中高年に好発する。ワクチンは実用化されていない。
12	インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1865-1870	カナダの共同農場で生活していた7ヶ月齢の乳児から、A/Canada/1158/2006と名づけられたブタインフルエンザAウイルス(H3N2)が単離された。この農場のメンバー90名のうち54名で同ウイルスに対する血清学的検査を行ったところ、54名中9名が陽性であった。また、ブタ10頭のうち1頭で血清陽性が明らかになった。ブタインフルエンザウイルス株は効率的にヒトからヒトへ伝染する形に適應または交雑することから、インフルエンザ流行への備えの一環として養豚者の定期的サーベイランスを検討すべきである。
13	インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1871-1878	2004年に、アイオワ州の田舎の住民803名を対象としてインフルエンザウイルス人畜共通感染に関する2年間の前向き研究を行った。アイオワ大学のブタ非曝露者79名と比較して、ブタ曝露者およびその配偶者は、ブタインフルエンザ(H1N1)ウイルスに対する抗体レベルが増加していた。更に、インフルエンザ様疾患データや組換えH1N1ウイルス分離などから、職業的ブタインフルエンザウイルス感染のエビデンスが示された。
14	インフルエンザ	J Gen Virol 2007; 88: 2035-2041	異なった養豚場の病気のブタから分離した5つのブタH9N2インフルエンザウイルスについて抗原性および遺伝的特徴を調べた。ブタH9N2ウイルスのヘマグルチニン(HA)抗原性は中国北部で優勢のニワトリH9N2ウイルスとは異なった。5つの分離株は全てHA開裂部位にRLSRモチーフを有していた。系統遺伝学的分析の結果、5つの分離株は初期のニワトリH9ウイルスと近縁の新規のHAおよびノイラミニダーゼ重型を形成した。分離株の6つの内部遺伝子はH5N1様配列を有したことから、H9とH5ウイルスの再集合体であることが示唆された。
15	インフルエンザ	Vaccine 2007; 25: 4376-4381	最近の研究でブタおよび家禽関係者、特に大規模な閉鎖施設で働く人は動物源性インフルエンザ感染の危険が著しく増大することが示された。これらの労働者はブタや家禽をヒトインフルエンザウイルスに暴露させるだけでなく、動物源性インフルエンザウイルスを家庭や地域に導入するおそれがある。彼らの潜在的橋渡し役のため、彼らは毎年のインフルエンザワクチンの優先的目標群として認知されるべきであり、またインフルエンザ伝播のリスクを軽減するための特別な訓練を受けるべきである。またサーベイランスの増加、疫病ワクチンや抗ウイルス薬の優先的授受を考慮されるべきである。
16	インフルエンザ	Wei Sheng Wu Xue Bao 2007; 47: 805-809	2005年に中国広東省でインフルエンザ様症状のブタから分離されたH3N2ブタインフルエンザウイルスA/Swine/Guangdon/01/2005の配列分析を行った。系統遺伝学的分析の結果、同ウイルスの基質および非構造遺伝子はH1N1ブタインフルエンザウイルス起源であり、ヘマグルチニン、ノイラミニダーゼおよび他の遺伝子はH3N2ヒトインフルエンザウイルス起源であると考えられた。同ウイルスはH3N2ヒトインフルエンザウイルスと古典的H1N1ブタインフルエンザウイルスの組み換え体である。
17	鳥インフルエンザ	PIG PROGRESS 2007年12月20日	ブタインフルエンザの新しい種H2N3が同定された。それは1957年の世界的流行時にヒトに感染したH2インフルエンザウイルスのグループに属し、トリとブタのインフルエンザウイルス遺伝子から構成されている。H2N3インフルエンザウイルスが哺乳類で検出されたのは初めてである。このH2N3ウイルスはマウスとフェレットにも感染性を示した。ブタが、トリ、ブタおよびヒトが「キャリア」となるインフルエンザウイルスの「混合容器」である可能性が示された。
18	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20071219.4079	米国の農場で病気にかかったブタから分離された遺伝的に類似したトリ/ブタウイルスリアソータンH2N3インフルエンザA型ウイルスを分離して、特徴づけた。これらのウイルスは実験で感染させたブタとマウスで病気を引き起こすことができた。そのうえ、ブタH2N3ウイルスは、伝染性で、ブタとフェレットで高い感染性を示した。これらの知見は、H2N3ウイルスが哺乳類の宿主へ適合を経験していること、そして、彼らの蔓延が非常に嚴重に監視されなければならないことを示唆する。
19	鳥インフルエンザ	WHO/EPR 2007年8月31日	2003年から2007年8月31日までのWHOに報告されたトリインフルエンザA (H5N1)の確定ヒト症例数は、計327例(死亡199例)である。2007年はカンボジアで1例(死亡1例)、中国で3例(死亡2例)、エジプトで20例(死亡5例)、インドネシアで30例(死亡26例)、ラオスで2例(死亡2例)、ナイジェリアで1例(死亡1例)、ベトナムで7例(死亡4例)が報告され、合計症例数は64例(死亡41例)である。
20	鳥インフルエンザ	国立感染症研究所 感染症情報センター 高病原性鳥インフルエンザ 2007年12月10日	2007年12月9日付け、WHO更新情報によると、中国保健省はWHOに対し、H5N1鳥インフルエンザの新たなヒト感染症例を報告した。江蘇省の52才の男性で、12月2日に同ウイルス感染で死亡した24才男性の父親である。男性は国家当局によって医学的観察下に置かれていた濃厚接触者のうちの一人である。男性は12月3日に発症し、現在入院中である。
21	鳥インフルエンザ	国立感染症研究所 感染症情報センター 高病原性鳥インフルエンザ 2007年12月6日	2007年12月4日付け、WHO更新情報によると、中国保健省はWHOに対し、H5N1鳥インフルエンザの新たなヒト感染症例を報告した。症例は江蘇省の24才の男性で、11月24日に発症し、11月27日に入院し、12月2日に死亡した。中国での確定例は26例で、うち17例が死亡している。

ID	感染症(PT)	出典	概要
17	ウイルス感染	Arch Virol 2007; 152: 611-614	2005年3月にハンガリー南西地方の2つの養豚場の豚17頭から糞検体を集め、RT-PCRによるカリシウイルス検査を行った。その結果、3頭(17.6%)の豚が陽性で、内2頭はサポウイルス陽性、1頭はノロウイルス陽性であった。これらのサポウイルスはヒトサポウイルスSapporo/82/JPとは57%のヌクレオチド相同性を示し、またノロウイルスはヒトノロウイルスVA97207/1997/USとは62%の相同性を示した。この研究でヨーロッパの豚におけるカリシウイルス存在が確認された。
18	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1184-1188	カナダの養豚場10施設のブタの糞検体12例をノロウイルスRNAについて検査したところ、30検体で検出された。遺伝子配列分析の結果、これらのノロウイルスはブタGII.11クラスター、ブタGII.18クラスターおよびヒトGII.4クラスターの3つの遺伝子型に属していた。また、市販の豚肉156検体中1例からGII.4クラスターのノロウイルスが検出された。ブタ糞中からヒトGII.4様ノロウイルスが検出された初めての報告であり、ノロウイルスの豚肉からの感染の可能性も示唆している。
19	ウイルス感染	Res Vet Sci 2007; 83: 130-132	メキシコシティの田舎の裏庭で飼育されているブタにおけるブタサーコウイルス2型(PCV2)の血清有病率を調べるため、7地区の108の小規模家族農場から得られたブタ血清検体695例を検査した。108農場中106(98.14%)で少なくとも1例の陽性検体が検出された。PCV2抗体に対する抗体価は、軽度136例、中等度264例、高度248例で、抗体陰性は53検体(7.63%)のみであった。メキシコシティの裏庭ブタでPCV2は広汎に分布していることが明らかとなった。
20	ウイルス感染	Virus Res 2007; 126: 256-261	1988-2003年の韓国における古典的ブタ高熱病(CSF)アウトブレイクで得られたCSFウイルスの分離体24株についてE2遺伝子の一部(190ヌクレオチド)を解析し、他の国で報告されているCSFウイルスと比較した。系統遺伝学的分析の結果、1988-1999年の分離体はサブグループ3.2に属し、他の国とは異なる独立したクレードを形成したが、2002-2003年の分離体は中国と台湾で報告されたCSFウイルスと近い関係にある2.1に属し、近隣国からの新しい株によるものと考えられた。
21	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2007; 56(32): 821-822	2007年8月14日までにCDCに報告された2007年1月1日~2007年8月14日までのウエストナイルウイルス(WNV)サーベイランスデータをまとめた。計27州で444例のヒト症例が報告され、3月25日から8月5日までの発症症例のうち15例が死亡した。49例の推定WNVウイルス血症供血者が報告された。WNV陽性蚊のプールは31州から報告された。
22	ウエストナイルウイルス	カナダ保健省 ウェストナイルウイルス 国家サーベイランス 報告 2007年11月4日-2007年11月10日(第45週)	第45週にウエストナイルウイルス(WNV)感染ヒト症例2例がカナダ保健省に報告された。2007年の累積数はヒトでは臨床症例2338例、無症候性感染症例28例が報告された。トリでは2007年5月以降に死亡した1985羽が検査され、内139羽がWNV陽性であった。家畜ではウマ109例が感染した。米国では今シーズン始めて以来、2007年11月13日までに3304例のヒトWNV症例が報告され、内93例が死亡例である。
23	エルシニア感染	Emerg Infect Dis 2007; 13: 754-756	2005年12月から2006年2月にノルウェーでは11人がYersinia enterocolitica O:9感染と同定され、このアウトブレイクの原因を見つけ、更なる感染を防ぐため、ケースコントロールスタディと微生物学的調査が行われた。感染者からの聞き取りによる食生活からの原因追求と、豚肉製品からのエルシニア菌の検出の調査を行った結果、調理済みの豚肉製品が原因と考えられた。今後は調理済みの加工肉製品からのエルシニア感染にも注意を払っていく必要がある。
24	感染	CDC/MMWR 2008; 57(05): 122-124	2007年10月29日、米国Minnesota南東部のブタ処理施設の従業員における原因不明の神経疾患についての報告があり、ミネソタ保健局と米国CDCが調査中である。2008年1月28日現在、進行性炎症性神経障害(PIN)症例は12例で、症状はブタ頭部処理に関わったヒトで発生した。原因は特定されていない。従業員500名以上のブタ処理施設25ヶ所を調査した結果、同様のブタ頭部処理装置を使用している施設は当該施設、ネブラスカおよびインディアナの施設の3ヶ所であり、インディアナの施設の従業員数名が同様の神経疾患を発生した。現在、この装置の使用は全て中止されている。
25	感染	CDC/MMWR 2008; 57(Early Release): 1-3	2007年10月29日、ミネソタ保健局はMinnesota南東部のブタ処理施設の従業員における原因不明の神経疾患について通報を受けた。州保健局と米国CDCが調査中である。2008年1月28日現在、同施設では12名(年齢中央値31歳、25-51歳)の作業員が進行性炎症性神経障害と同定された。2006年11月から2007年11月にかけて、ブタ頭部処理に関わったヒトで発生した。原因は特定されていない。
26	感染	Minnesota Department of Health/ News Release 2007年12月3日	ミネソタ州保健局はオーステンのブタ処理施設Quality Pork Processors社の従業員における11名の神経疾患について調査中である。最初の症例は2006年12月に発症し、その後数ヶ月間にわたり、2007年7月まで発症した。先週、更に入院中の1名を確認した。筋力の低下や感覚異常を特徴とし、炎症性神経疾患と思われる。死亡例はない。11症例はブタ頭部や臓器の処理場で働いていた。原因は特定されていない。
27	感染	ProMED-mail20070529.1723	中国Guangdong省 Jiangmen市 Xinhui地区 Yashanおよび Xiaoping管理区域で感染症によりアヒルが死亡しており、2007年5月22日に当局は最近2~3週間で1000羽以上が死亡したと発表した。専門家委員会は髄膜炎感染により死亡したと予備的に決定した。Yashan区域で20日以上前にブタが病気で死に始め、隣接するXiaoping区域に広がり、ほぼ全ての養豚場でアヒルが死亡したとされている。原因は不明である。

ID	感染症(PT)	出典	概要
28	感染	ProMED-mail20070529.1735	中国で青耳病として知られる原因不明の疾患および口蹄疫によりブタが大量に死亡しており、豚肉の価格が高騰している。2006年半ばに1例目が発見されたブタ高熱病は、豚生殖器呼吸器症候群、古典的豚コレラおよび豚サーコウイルスの混合感染が原因とされている。最近2、3年の間に、ブタ高熱病と呼ばれる同様の感染症が中国南部でも報告されている。微生物学者による詳細調査が行われる予定である。
29	感染	ProMED-mail20080118.0226	インジアナ州の豚肉加工場従業員2名がミネソタ州の精肉業者を襲った原因不明の疾患と同じ症状を発症した。インジアナの従業員も、ミネソタの作業員と同様に、ブタの頭から脳を吹き飛ばすために使用する強力な空気圧縮装置の近くに配置されていた。彼らは手足の疲労感、麻痺および疼きといった炎症性神経症状の顕著な特徴を示した。飛散したブタの脳がこの病気の原因となった可能性がある。この工程は現在は使われていない。
30	口蹄疫	OIE Disease Information 20(20) 2007年5月17日	中国における口蹄疫-Follow-up report No.5:開始日-2007年1月15日、アウトブレイクの確定日-2007年1月17日、報告日-2007年5月16日、前回の発生日-2006年11月、病因-口蹄疫ウイルス(血清型Asia1)、新たなアウトブレイク-Gansu, Yuzhong, Hongliugouの村(アウトブレイクの開始日2007年5月12日):ウシにおいて疑い例39例、症例10例、処分39例、ブタにおいて疑い例32例、処分32例、感染源-不明もしくは結論に到達していない。
31	細菌感染	BMC Microbiol 2007; 7(14) doi:10.1186/1471-2180-7-14	ノルウェーでヒト、ブタおよび野鳥由来のMycobacterium avium分離株をIS1245およびIS1311 RFLP(restriction fragment length polymorphism)によって調べた。IS1311 RFLPでは明解な結果が得られたが、IS1245 RFLPでは複雑なパターンが得られ、両者を併用すると更に分離株間の差別化ができた。ヒトとブタでは広範囲のM avium亜種hominissuisが存在し、幾つかの分離株は非常に類似していた。トリの分離株は全てM avium 亜種 aviumでヒトおよびブタとは異なった。
32	細菌感染	J Vet Med Sci 2007; 69: 449-453	日本の養豚場で6ヵ月齢の雌豚が突然、嗜眠、食欲不振、起立困難、咳を呈し、7日後に屠殺され、剖検された。脾臓の縁に多数の集合した出血性病巣が見られ、グラム陽性桿菌が脾臓、腎臓、筋肉および肝臓から分離された。16S rDNA遺伝子配列解析より、この分離菌(TO16177)は未公表のArcanobacterium属HJ57-14E株(accession no.gi 18873551)と同じ種であることが明らかとなった。広汎な壊死が脾臓および肝臓に認められた。未公表のArcanobacterium属菌が肥育豚の急性出血性壊死性脾臓炎を伴った多臓器不全を引き起こしたと考えられた。
33	細菌感染	ProMED-mail20071220.4090	2007年12月18日、連邦保健局は少なくとも2つの州で発生した細菌で汚染されたシリンジに関連した血液感染例を調査中であると発表した。テキサスおよびイリノイ州での感染者は約40名で、死亡は確認されていない。原因を調査したところ、ヘパリンシリンジが汚染されていたと考えられた。Sierra Pre-Filled社の特定のロットでSerratia marcescensが検出された。該当ロットはコロラド、フロリダ、ペンシルベニアにも出荷されているが、現在のところテキサスとイリノイでのみ感染が発生している。同社は該当ロットを自主的に回収している。
34	細菌感染	ProMED-mail20071222.4112	フロリダ保健局はヘパリンシリンジに関連するものと思われる2例を含む血液感染の発生を調査中である。Sierraプレフィルドヘパリンシリンジの特定のロット(Lot No. 070926H)からSerratia marcescensが検出された。当初、感染はイリノイとテキサスでのみ発生したが、フロリダが3番目の州となった。
35	細菌感染	Vet J 2007年12月10日	中国東部で離乳後に下痢または浮腫を発症したブタから分離された大腸菌324株にAIDA-1(adhesin involved in diffuse adhesion)遺伝子が存在するかスクリーニングし、AIDA-1陽性株のAIDA-1遺伝子のorfAおよびorfBのヌクレオチド配列分析を行った。その結果、分離株のうち21株(6.5%)がAIDA-1遺伝子を有していた。またブタ大腸菌とヒト大腸菌AIDA-1のorfAは高い相同性を示した。AIDA-1はブタの離乳後の下痢と浮腫疾患における病原因子となる可能性があり、ブタの大腸菌とヒトの大腸菌の間で移動する可能性があることが示された。
36	細菌感染	Vet Microbiol 2007; 125: 175-181	フィンランドにおけるブタおよびヒトMycobacterium avium complex 分離株の遺伝的関係を調べた。ブタの器官16例および臨床検体13例から分離されたM. avium株をIS1245 RFLP分析で比較した結果、ブタ株2株とヒト株2株のRFLPパターンは95%以上の相同性を示した。ヒトとブタのM. a. hominissuis分離株の高い相同性は遺伝的関連性の近さを示し、M. a. hominissuisがブタとヒト間を伝播している、あるいはブタとヒトが共通の環境感染源を共有していることを示唆している。
37	サルモネラ症	J Antimicrob Chemother 2007; 60: 398-401	メキシコYucatanにおける多剤耐性(MDR)ネズミチフス菌の伝播について調べた。プラスミド介在性blaCMY-2 AmpCβラクタマーゼを含むMDRネズミチフス菌は2000-2001年の0%(0/27)から2004-2005年の75%(63/84)に有意に増加した。MDR blaCMY-2ネズミチフス菌(N=115)は病気の小児(44.3%)および豚肉または豚の腸(36.5%)に最もよく見られた。同菌に感染した小児(n=39)では非MDRサルモネラ菌を有する小児(n=24)より全身感染(13% vs 0%)、死亡(8% vs 0%)および遷延性下痢による再入院(28% vs 17%)の頻度が高かった。メキシコではMDR blaCMY-2ネズミチフス菌が急速に広範囲にわたって伝播しており、緊急の対策が必要である。
38	旋毛虫症	ProMED-mail 20070713.2242	旋毛虫症の発生は、ドイツに接している北西部ポーランドの地域のZachodniopomorskie Voivodeship (West Pomerania)で拡大中で、2007年7月12日までに、201人が感染した。発生は、2007年6月9日にKamien Pomorskiで地元の公衆衛生部門に最初に通知され、4人が旋毛虫幼虫感染を示唆する、熱、関節痛、眼窩周囲と顔の浮腫、嘔吐などの臨床症状で入院した。60の血清検体中28検体が抗旋毛虫抗体陽性であった。肉製品を製造している一つの製造者が発生源と確認され、この肉処理工場は2007年6月15日に閉鎖された。そして、2007年の5月と6月にそこで生産されたすべての肉製品は店と倉庫から回収された。